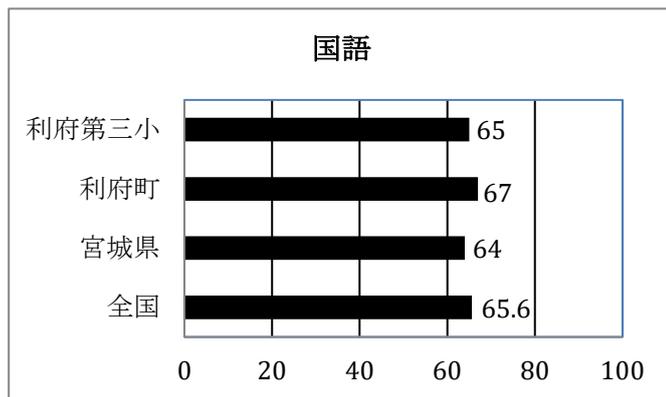


## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

今年の4月19日(火)に、全国の公立小学校に通う6年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月下旬に届きました。これに基づいて、この度、本校の児童の学習や生活の状況について、良さや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

### Ⅰ 学力調査の結果

#### 【国語】 平均正答率65%

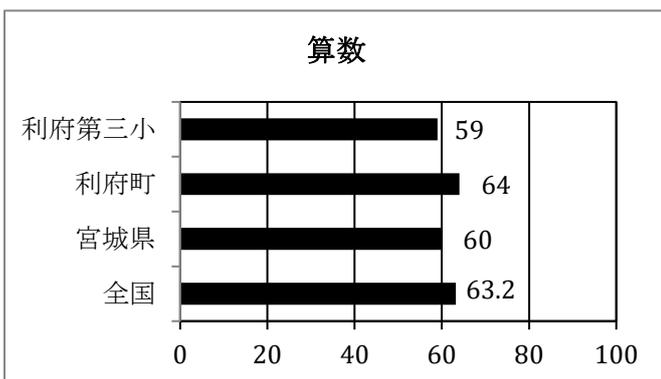


- ・国語は、全国の平均正答率を0.6ポイント下回りましたが、ほぼ同程度の正答率でした。
- ・「書くこと」の項目では、全国の平均正答率を0.1ポイント上回り、ほぼ同程度の正答率でした。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」の項目では、全国の平均正答率を2.1ポイント上回りました。
- ・「話すこと・聞くこと」の項目では1.2ポイント、「読むこと」の項目では3ポイント、それぞれ全国の平均正答率を下回り、課題があることが分かりました。

具体的な学習状況 (◎良くできていた点 ●課題としてあげられる点)

- ◎学年別漢字配当表に表示されている漢字を文の中で正しく使う問題での正答率が高くなっていました。
- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題で間違いが多く見られました。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付ける問題で無回答が多く見られました。

#### 【算数】 平均正答率59%

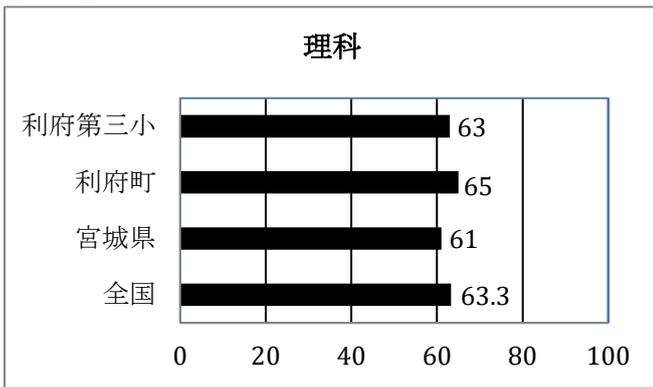


- ・算数は、全国の平均正答率を4.2ポイント下回っています。
- ・「図形」の領域では1.4ポイント上回っていました。
- ・「数と計算」の領域で5ポイント、「変化と関係」の領域で7.7ポイント、「データの活用」の領域で6.8ポイント下回りました。特に「変化と関係」の領域では無回答の多い問題もあり、課題があることが分かりました。

具体的な学習状況 (◎良くできていた点 ●課題としてあげられる点)

- ◎示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる問題の正答率が高くなっていました。
- 百分率で表された割合を分数で表す問題では、間違いと無回答が多く見られました。
- 二つの数の最小公倍数を求める問題で間違いと無回答が多く見られました。

【理科】 平均正答率63%



- ・理科は、全国の平均正答率を0.3ポイント下回りましたが、ほぼ同程度の正答率でした。
- ・「エネルギー」を柱とする領域では、全国の平均正答率を2.7ポイント上回りました。
- ・「生命」を柱とする領域では、全国の平均正答率を2.7ポイント上回りました。
- ・「粒子」を柱とする領域では4.4ポイント、「地球」を柱とする領域では0.6ポイント、それぞれ全国の平均正答率を下回り、課題があることが分かりました。

具体的な学習状況 (◎良くできていた点 ●課題としてあげられる点)

- ◎提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかを問う問題の正答率が高くなっていました。
- ◎観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかを問う問題の正答率が高くなっています。
- 自分の予想と実験結果を基にまとめて、自分の考えをもつ問題での間違いが多く見られました。
- 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して解釈し、その内容を記述する問題で間違いと無回答が多く見られました。

## 2 今後の取組について

### 国語

- 「読む力」をつけるために、語彙力を高めます。知らない単語やわからない表現に出くわしたとき、意味を考えたり意味を調べたりする習慣をつけさせます。
- 正確に音読する力をつけます。重要な単語を意識することができるよう丁寧に音読するよう指導します。
- 朝読書や課題終了後の時間などを通して、多くの書物に触れる機会を設け、読書活動を全校で推進していきます。
- 筆者の考えや物語の描写に対して、自分の考えを書く時間を十分に確保するとともに、その考えをペアやグループでお互いに伝え合う活動をこれまで以上に取り入れていきます。

### 算数

- 授業の振り返りの時間に、適用問題に取り組む時間を継続して取り入れていきます。
- 「数と計算」や「変化と関係」の基礎となる九九を、正確に素早く活用できるように、授業の中で百マス計算を取り入れていきます。
- 文章問題に書かれている内容を捉えるために、授業の中で図を活用していきます。特に、「変化と関係」や「データの活用」の学習では、図に分かっていることを書き込ませたり、必要のない情報を削除させたりする活動を取り入れ、理解を深めていきます。
- 授業の中で、自分の考えを順序よく話したり、理解した友達の考えを説明したりする学び合い活動に取り組みせ、筋道を立てて考える力や考えを説明する力を高めていきます。

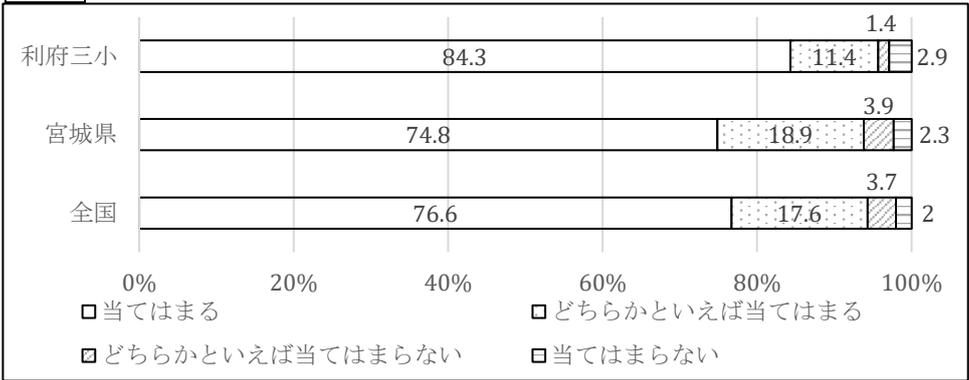
### 理科

- 授業の中で、問題に対する予想を、生活経験や既習事項を基に立てる活動を取り入れていきます。
- 実験や観察結果を整理し、問題に対する答えを、筋道を立てて考察させる時間をこれまで以上に確保するとともに、その考えを友達の考えと比較しながら伝え合う活動を取り入れていきます。
- 「水溶液」や「地層」など、学習で取り扱われる科学的な言葉の意味を随時確認し、定着させていきます。

### 3 学習状況調査の結果

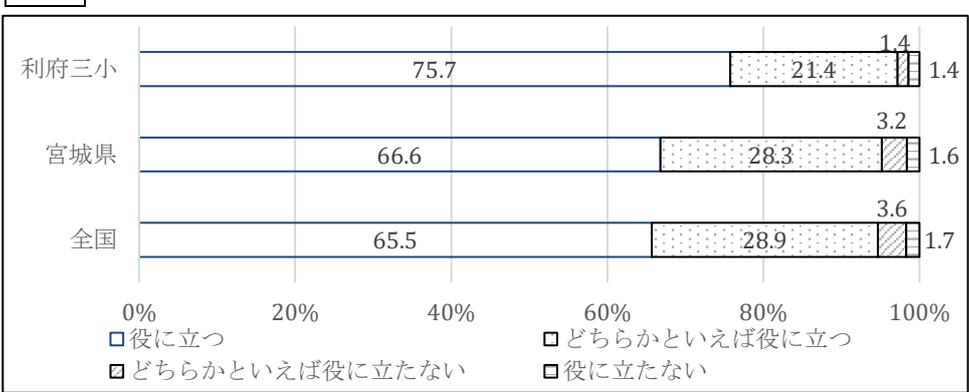
#### (1) 良い傾向が見られる項目

**成果1** 算数の授業は大切だと思いますか。



全国平均と比べ「当てはまる」と回答した児童の割合が7.7%高くなっています。  
算数の授業に前向きに取り組んでいることが分かります。今後も、授業時間に加え、朝の学習タイムを活用しながら、既習事項を繰り返し学習し、基礎基本の定着を図ります。

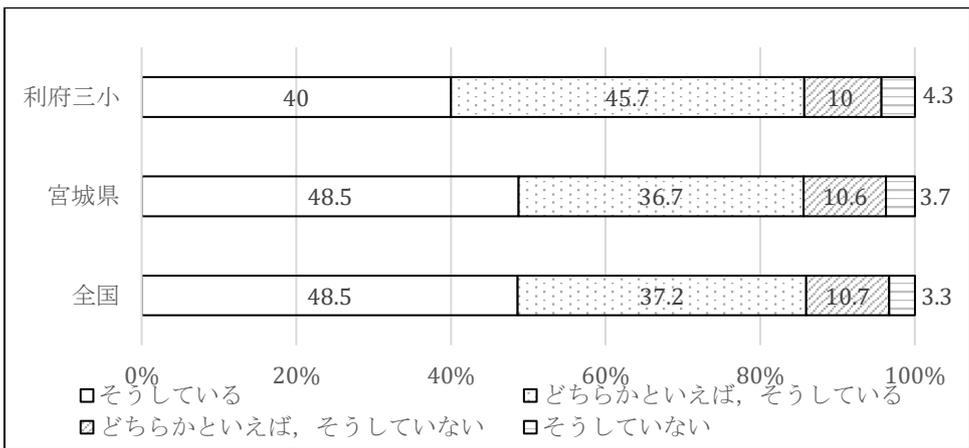
**成果2** 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



75.7%の児童が、役に立つと回答しています。  
授業においてICT機器の使用頻度が高まっています。調べ学習だけでなく、友達との意見交流も行っています。今後、多様な意見の交流から児童の深い学びにつながる指導にICT機器を活用していきます。

#### (2) 改善が必要と思われる項目

**課題** 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。



全国平均と比べ「そうしている」と回答した児童の割合が8.5%低くなっています。  
「そうしている」「どちらかといえば、そうしている」と答えた児童が85.7%いることから、公式を覚えて使うことはほとんどの児童ができていと言えます。必要な活用場面で正しく使うことができるように、授業の中で意図的に友達のを考えを説明させるなどの活動を取り入れ、よりいっそう公式の意味理解を促していきます。